



行所 都民 館  
西蒲 公衆 人司  
卷町 編集 郡所  
北川 印刷 株式會社  
(西蒲、卷町、電話204番)

# 定時制高校訪問記

## 働まつつ学が 卷中新聞部

いろいろな問題を含み、社会的に重要な位置にある定時制高校(特に夜間)の実際の姿をしるべく我々巻中新聞部は五月二日巻農業高校内にある定時制高校を訪問した

去る五月二日午後七時三〇分、定時制高校夜間部を訪問した。玄関を入り高杉先生に迎えられて教務室に入る。先生方にお会いし、校長室で木村校長先生に御挨拶する。それから校長先生に御案内されて授業中の校舎をまわり、農校関係の各校舎も見学する。その昔荒木大将がこれらと言った日本間も今は教室と化し、講堂には元伊藤北大総長の書かれた「青年抱大志」の額がかかっている。校舎を一巡し校長室へ歸り、校長先生、高杉先生、生徒會関係の大橋武夫、桑原昭一の両君を交えて定時制高校についていろいろとお話をする。

定時制の概要についてお話を下さった。校長先生は「働きながら勉強すると云う事は仲々大変な事ですが、然し日本はアメリカ等に比べてもつと働かざるを得ない環境がから勉強出来る環境が必要ですね」といろいろ現状をお話して下さい。定時制は巻を中心校として吉田(八十名)曾郷(百二十名)内野(百五十名)黒崎(三百名)で巻は百五十名位との事である。現在夜間部は本年度の志願者が少なかったために一年生は設置されず、二、三、四年生のみである。この事について校長先生にお話を伺う。「一年生の設置が認められなかったのは應募人員が少なかつた爲であり、決して他の分校に取られた爲ではありませんが、巻は普通高校があるためと、夜間は通学困難と言う理由もありません」と言われ「校長先生は、彌彦あたりから夜間通学されている感心な生徒のお話もされる。一年生がないとどうですか」と大橋、桑原両君に質問する。「やはりさびしいですね、このままでゆけば三年後には夜間部は無くなる様になります。巻町発展のためにも、向學心に燃えている人々のためにも是非定時制高校を進展させたいと思えます。働きながら学ぶ事の苦しみやよろこび等について校長先生、高杉先生、生徒諸君とお話をすると、いろいろとお話をすると、諸君には苦しい事はあると思いますが、働きながら勉強していると、勉強している生徒の姿をみると、ほんとうに眠っている生徒を見出すこともありませぬ。起すことは出来ませぬ。——何んとも言えない氣持になる時もありますね」と言われる校長先生は「映画等もたまにいい映画が来ますが、生徒の諸君(夜間部)これを観ることが出来る、働くことと勉強する事と眠ることとで一ぱいなんです。ね、どうですか? 諸君、映画等の観られないのが大きな苦痛の一つじゃないですか」と大橋君達に質問される。「そうです」と素直に答える。大橋君達の顔にも何か強い意志が見られる。高杉先生に生徒諸君の学習の状態等をお聞きする。「定時制の生徒ははじめです。三、四年生など目の色が違いますが」と言われる。

大橋、桑原両君に生徒會活動についていろいろとお話を伺う。私立中学校と特別受けたと言ふ様なものも多くはなかつた。新瀉の図書館より巡回文庫の圖書を貸りて来て勉強しているとの事である。いろいろとお話をすると、最後に定時制の将来についてのお話を伺う。「毎年の巻中卒業生の半分は町にいるのですが、定時制に就いての認識不足と言ふ事も定時制入學率に關係あるんじゃないですか」と高杉先生が言われる。「校長先生は「それもありませぬ、然し卒業生の半数もこの町に居られると言ふ事は定時制の将来に何か明るい希望を持たせてくれるものとも考えられます。定時制の強みは卒業

生が主にこの土地でそのまま基礎をつくつて活動すると言ふ事ですね。その中立派な卒業生が多く出る頃になると定時制の意義も尙一層強くあらわれて来るのではないでしようか」とお話になる。農学校の牛の乳等を頂戴し時計をみると八時半に近しい、これから生徒會活動があるからと言われたので、校長先生始め諸先生方、生徒諸君に送られて玄関を出た。

春の夜はまだ肌寒かつた。  
(本間、渡辺、高島、大籠、小林記)

公民館 定期講座に望む  
今年中学校を卒業して社会人となられる方々を對象に公民館弘報部の會のことに興味のある男女合計八六名の方々から回答をいただきました。

一、講座を開設したら出席されますか  
七  
1. 出席する  
2. 内容により出席七一  
3. 出席しない  
八  
二、どんな講座を希望しますか

1. 珠算 四六  
2. 料理 四二  
3. 和洋裁 三五  
4. 書道 三〇  
5. 国語 二七  
6. 簿記 二四  
7. 算数 二二  
その他 九  
三、趣味の会について(自分も入つてみたい会は)  
1. ハイキング 五二  
2. 読書 四四  
3. 登山 三五  
4. 俳句 一五  
5. 旅行 五

その他 六  
四、現在この町に出来る入会したいものは  
1. 卓球 三六  
2. 読書會 三一  
3. 釣魚會 二二  
4. 女性のつどい 二一  
5. 排球 一六  
6. 演劇 一五  
7. 野球 一三  
8. 俳句 一三  
9. 陸上競技 一三  
10. 籠球 九  
その他 六

町議會だより  
今月の議会は保育所の増築並に葉巻場、中郷の耕地整理に伴う用水路の堀サケ用地買収の問題が主として取り上げられた。

① 保育所については厚生委員會、議員全体協議會等の議を経て増築が承認せられ請負に就いては競争入札を厳して約百二十万円で巻町水倉組と特別の契約を結ぶこととした。これに伴う追加予算並に水倉組に請負せしめることについて四月二十二日第二回臨時會に於て議決した。

② 用水堀サケ用地の問題に就いては巻町及巻町農家代表と鏡郷村との間に契約書を取り交し円満安結した。

五月晴れの下、植書高く巻保育所の増築工事が進められては約三百名は六月下旬に



# 喧嘩

巻小学校 藤田トモ子

「先生××さんと〇〇さんがけんかしているね。」教室に向う私を廊下まで迎えて来た一人の子が口早に告げる。行つて見ると眞赤な顔をした二人の子が取つ組んでいる。それを眞剣に止めようとする数人、取りまいて見ている子供達。誰も先生の来た事、告げられたこと等氣すかない。私もそのままじつと見守つた。そうこうする中に仲裁を受けた二人はようやく離れた。

こつくりと二つの頭がうなづく。「もうそんなことでけんかしないわね。」先刻までの緊張はいつかとけて教室中が何かホツとした和みかさに歸る。二人が顔を見合せてきまり悪そうに笑つた。それにつりこまれてみんながほほえんだ。「さあこんどはおべきようね。」

といふ。其川の西に大平瀧東に龍瀧あり。何れも小なり。附言 蒲原郡龍瀧等も潮汐の益處にて出来しものならん、往昔は坂田の辺より海切れ入りて古津辺鳥屋野なども船着のよし申傳へり左候へは龍瀧も汐の差引にていつしか水溜り止りて瀧となりしにや。未詳。

## 【拔書・聞書・覺書】

### 北越略風土記

「先生〇〇さんがね。」とひとしきり報告の聲で教室がざわめく。少時らくして靜かになる。「どうしたの。」というのと、つと立つた一人の子が一部始終を聞せる。

同郡巻村の東にあり元來萱原なりしに文祿前洪水度々、三方の川流れ入て瀧となる。東西三十丁、南北十五丁、周端に菰を生じ、菱実多し。菓とし糧とす。むかし蓮多し。今はなし。水底に蔕ありて不朽、二尺に及ぶ大ブナあり。猶マメハヘ等の魚も多し。皆運上料にて自由とす。又水底に俗称田貝といへるものあり。長さ六七寸大なるは尺に及ぶ。外黒く内は黒碧の肉剛く

食へからず。これカラスガイといへる物なるべし。此瀧より北の田瀧へ通流あり。早通川

巻村 山州醍醐三寶院の末寺也。三寶院宮和州大峰に入らせ給ふ節は笠を負て御先達を勤む。權大僧都阿闍梨法師にて紫衣を着す。末院國中に四百ヶ寺あり。内導師を執行する寺三十七ヶ寺。又羽州に末寺百八十六ヶ寺あり。

北越略風土記は岩室村船越の人で船越組の割元庄屋をしていた、

和らべ唄 巻町十区 星野マチ

ちようちんちようちん ちようちんちようちん ちようちんちようちん ちようちんちようちん

のだし、塩、砂糖、醬油、玉子二ヶ、味の素青ピーマン一ヶ

## 文珠院

修験地也

山岸武夫 家庭に於ける子供さん方の英語の学習指導

星山三郎著、家庭における英語の学習指導 法文社発行、一三八頁 一二〇円

家庭に於ける子供さん方の英語の学習指導

の立場から、その問題を

## 短歌

巻町一区 高橋和子

春寒き局のドア押入れば

水仙に若みどり葉の紫陽花をいけありし

局の窓の棚に日暮ぬ

## 家庭重宝メモ

なすの軟らか煮

玉子かけ

材料 なす五ヶ(大)

きめのもの、かつをい

## 原稿募集

町民の声

隨筆・小品文

短歌・俳句

詩・その他

## 家庭重宝メモ

なすの軟らか煮

玉子かけ

材料 なす五ヶ(大)

きめのもの、かつをい

## 家庭重宝メモ

なすの軟らか煮

玉子かけ

材料 なす五ヶ(大)

きめのもの、かつをい

## 家庭重宝メモ

なすの軟らか煮

玉子かけ

材料 なす五ヶ(大)

きめのもの、かつをい

## 家庭重宝メモ

なすの軟らか煮

玉子かけ

材料 なす五ヶ(大)

きめのもの、かつをい

## 家庭重宝メモ

なすの軟らか煮

玉子かけ

材料 なす五ヶ(大)

きめのもの、かつをい

## 家庭重宝メモ

なすの軟らか煮

玉子かけ

材料 なす五ヶ(大)

きめのもの、かつをい